

大分縣寫真帖

大分縣寫真帖

大分縣寫眞帖目次

皇太子殿下御泊所(大分縣立中津高等女學校)	一
統 監 部(中津南部尋常高等小學校)	二
大分縣廳	三
官幣大社宇佐神宮	四
國幣中社西寒多神社	五
國幣小社作原八幡宮	六
大 分 市	七
中 津 町	八
別 府 町	九
歩兵第七十二聯隊	〇
大分縣師範學校	一
大分縣女子師範學校	二
大分縣立大分中學校	三
大分縣立中津中學校	四
大分縣立宇佐中學校	五
大分縣立大分高等女學校	六
大分縣立農學校	七
大分縣立工業學校	八
大分縣立農林學校	九
四日市尋常高等小學校	〇
大分縣立病院	一
大分縣物産陳列場	二
大分縣農事講習所	三
大分縣種畜場	四
大分紡績株式會社	五
大和組豐後製絲場	六
片倉組製絲紡績株式會社大分製絲所	七
中津絹絲紡績株式會社	八
豐中製絲株式會社	九

成清鑛業株式會社馬上金山	三〇
久原鑛業株式會社佐賀關製煉所	三一
大分セメント株式會社	三二
大野製絲株式會社	三三
九州水力電氣株式會社女子畑發電所	三四
明治大分水路普通水利組合	三五
竹細工	三六
大分縣模範林	三七
蘭田	三八
津組蜜柑	三九
牛馬放牧	四〇
大分港	四一
佐伯港	四二
大友宗麟の墓	四三
福澤翁記念碑	四四
廣瀬中佐銅像	四五
羅漢寺	四六
青の洞門	四七
深耶馬溪	四八
富貴寺	四九
血の池地獄	五〇
海地獄	五一
由布嶽	五二
魚住の瀑布	五三
龍門瀑布	五四
九重山	五五
久住硫黃礦	五六
日出生臺	五七

大分縣寫眞帖目次終

皇太子殿下御泊所 (大分縣立中津高等女學校)

中津町舊城内に在り、明治四十四年下毛郡立として創設せられ、大正三年四月現校舎の新築成り、翌四年三月より組織を變更して縣の經營に移せり、修業年限四箇年、十二學級にして、生徒現員五百五十人なり。

今秋豊前平野に於ける特別大演習に際し、皇太子殿下御泊所に充てらる。





統 監 部 (中津南部尋常高等小學校)

中津町舊城内に在りて同町約半数の児童を收容す、現校舎は大正七年の新築にして、二十學級一千百人の児童を收容す。
今秋豊前平野に於ける特別大演習舉行に際し、統監部に充てらる。





大分縣廳

大分市街の東、舊府内城址にあり、城は慶長二年
福原氏の創始にして、爾來早川、竹中二氏を経て、
日根野氏に至り完備す、荷揚城又白雉城と稱す、
明曆四年以後、大給氏の居城たりしか、明治四年
大分縣廳を置き、豊後一國豊前二郡を管轄す、濠
堞門樓今猶存し、夕陽依稀として老松に映する
の時、坐るに往時を追懷せしむ。

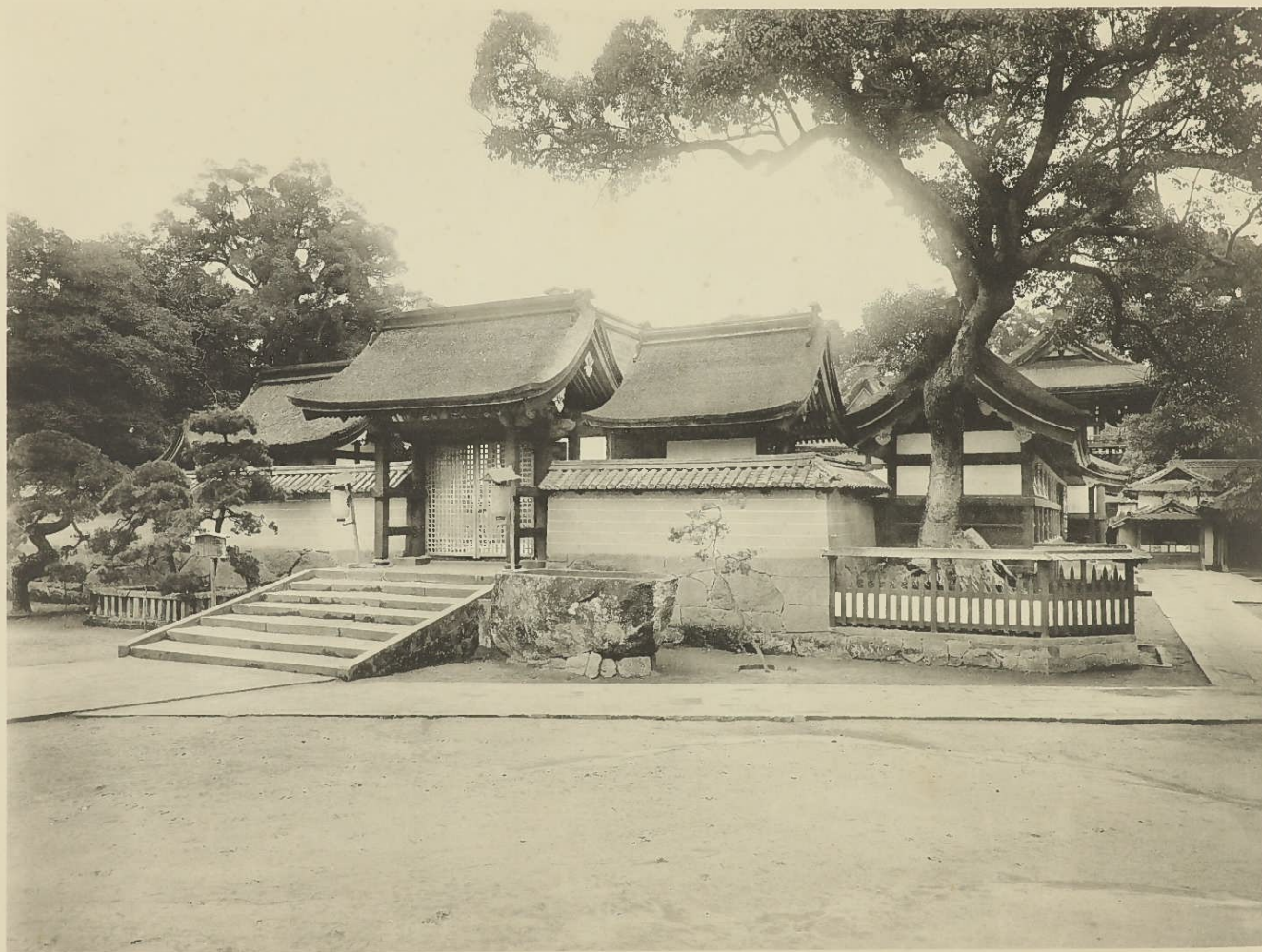




官幣大社宇佐神宮

宇佐町の東方、龜山に鎮座す、欽明天皇三十年、應神天皇、比賣大神、神功皇后を奉祀す、古來皇室の尊崇甚な厚く、其災害あるや廢朝の事さへありし、境内古木翁鬱、寄藻川其麓を繞つて流れ、大尾山其東に峙ち、一たひ足を瑞籬の内に容るれば、閑古幽寂、威靈身に迫りて覺えず襟を正さしむ。





國幣中社西寒多神社

大分郡東植田村にあり、西寒多神を祀る、境内櫻
樹多く、一條の清泉神城を繞りて流る、土地閑寂
にして風景亦佳なり。





國幣小社作原八幡宮

大分郡八幡村に鎮座す、大分港埠頭より西南坂路を登ること十町許、四望宏濶の境、樹木森々たる一寰區即ち靈域とす、閑雅幽邃一點の黃塵を留めず、神殿廻廊樓門等頗る壯麗なり、祭神は仲哀、應神、神功の三柱にして、天長四年の創祀に係り、古へ屢勅使下向のこゝあり、古文書、寶物數百點を藏す、大正五年國幣小社に昇格せらる。





大分市

王朝時代より豊後の國府を市の南端に置かれ
しか、大友氏を経て、徳川氏に至り、府内藩と稱し、
福原、早川、竹中、日根野、大給の諸氏此地に封せら
れ、明治四年大分縣廳を置き、大分町と改稱す、
同四十四年市制を布き、爾來市勢益々發展して、現
今戸數七千四百、人口四萬七千を有するに至る、
諸官衙、學校、兵營、會社、工場等の建物巍々として
聳立し、日夜殷賑を極む、春日浦の勝景、上野丘の
古美術は、世に誇とする所なり。





中津町

天正十四年、黒田如水來りて中津城を築き、十六萬石を領してより、市街俄に殷賑となり、後細川、小笠原を経て、享保二年奥平氏十萬石を以て丹後より移封し、以て明治維新に及ぶ、縣下最も廣濶なる山國川の平野を控へて、其の河口に位置し、交通至便、商業繁昌せり、戸數二千五百、人口一萬四千あり、舊城内の公園、閑無濱は遊覽の勝處にして、大雅堂の揮毫を藏する自性寺は、發客の觀覽常に絶えず。





別府町

豊後灣の底位に在り、鶴見山後に聳え、薩蓋海前に湛ゆ、波光嵐影の間、市街縱横相連り、氣候溫和、大氣清鮮、到る所温泉の湧出せざるなく、汽車汽船の交通至便にして、浴客常に萬を下らず、是以て近年町勢大に發展し、現今戸數五千、人口二萬六千に及び、泉都の名天下に喧傳せらるゝに至れり。

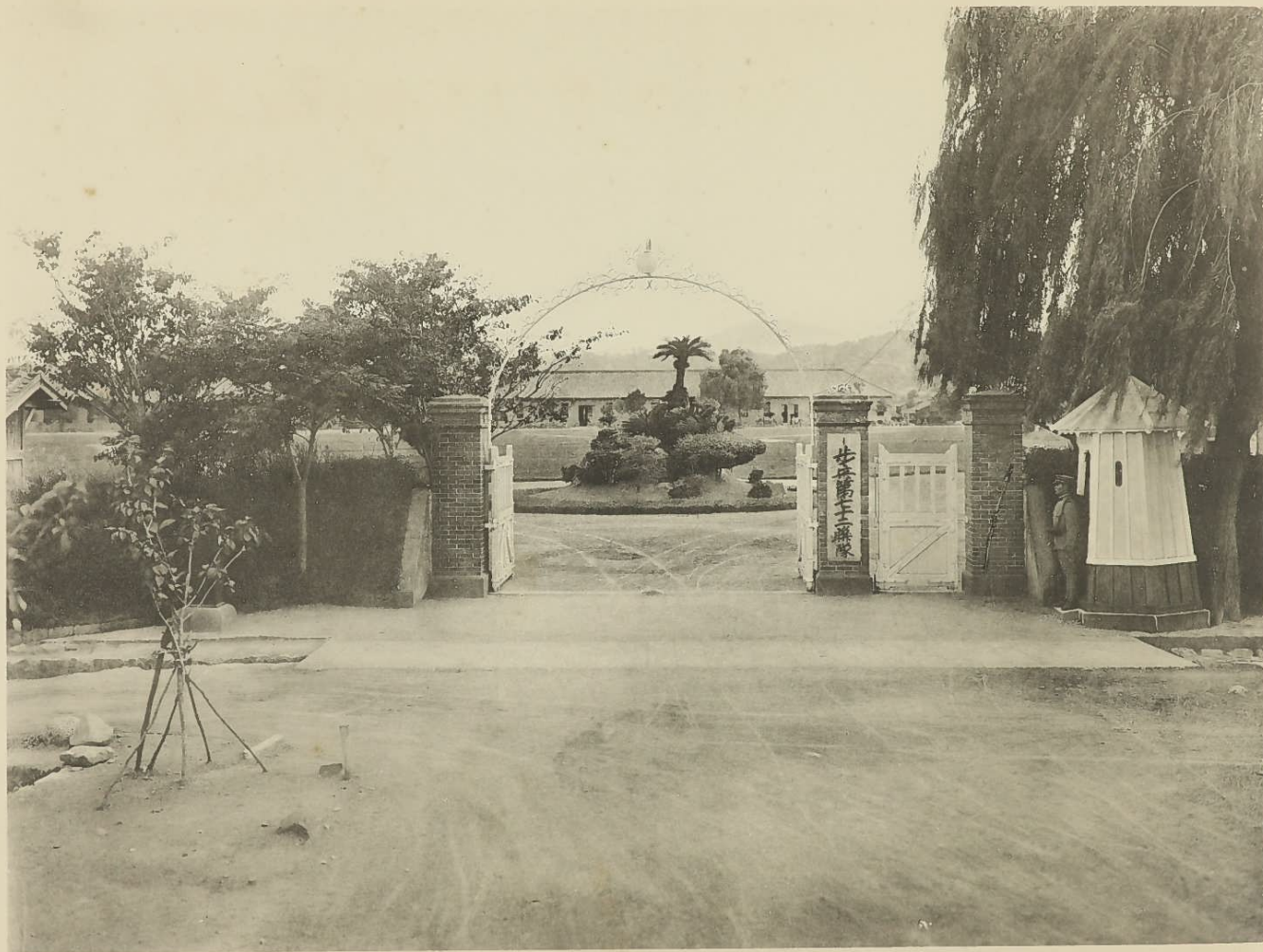




歩兵第七十二聯隊

大分市街の西端にあり、明治四十一年始めて第十二師團より分置せし營所なり、大正七年西伯利亞に出征して殊功あり、田中支隊壯烈の最後は永へに青肝に傳ふる所たり。





大分縣師範學校

大分市街の西北部にあり、背後に春日浦を控へ、
蓬萊公園に隣接し、空氣清新、風光明媚なり、現校
舎は明治三十三年の建築にして、敷地約九千五
百坪、建坪約二千六百坪、生徒三百八十名、附屬小
學校は、同一構内に在りて兒童四百七十名を收
容す。





大分縣女子師範學校

大分市街の東端に在り、明治四十四年の建築にして、敷地約七千七百坪、建物約二百坪、縣立學校中最も完備せるものと稱せらる、是より先明治四十年、高等女學校内に女子師範部を設置せられしか、是に至りて分離移轉す、生徒百八十餘名、五學級に編成し、別に講習科四十名、附屬小學校、児童二百七十名あり。





大分縣立大分中學校

大分市街を距る南二十町、上野か丘にあり、明治二十七年の建築にして、敷地約一萬百坪、建物約千六百坪、生徒數五百八十人あり、土地高燥にして、四望快濶、嵐影水光、自から机邊に落つ。

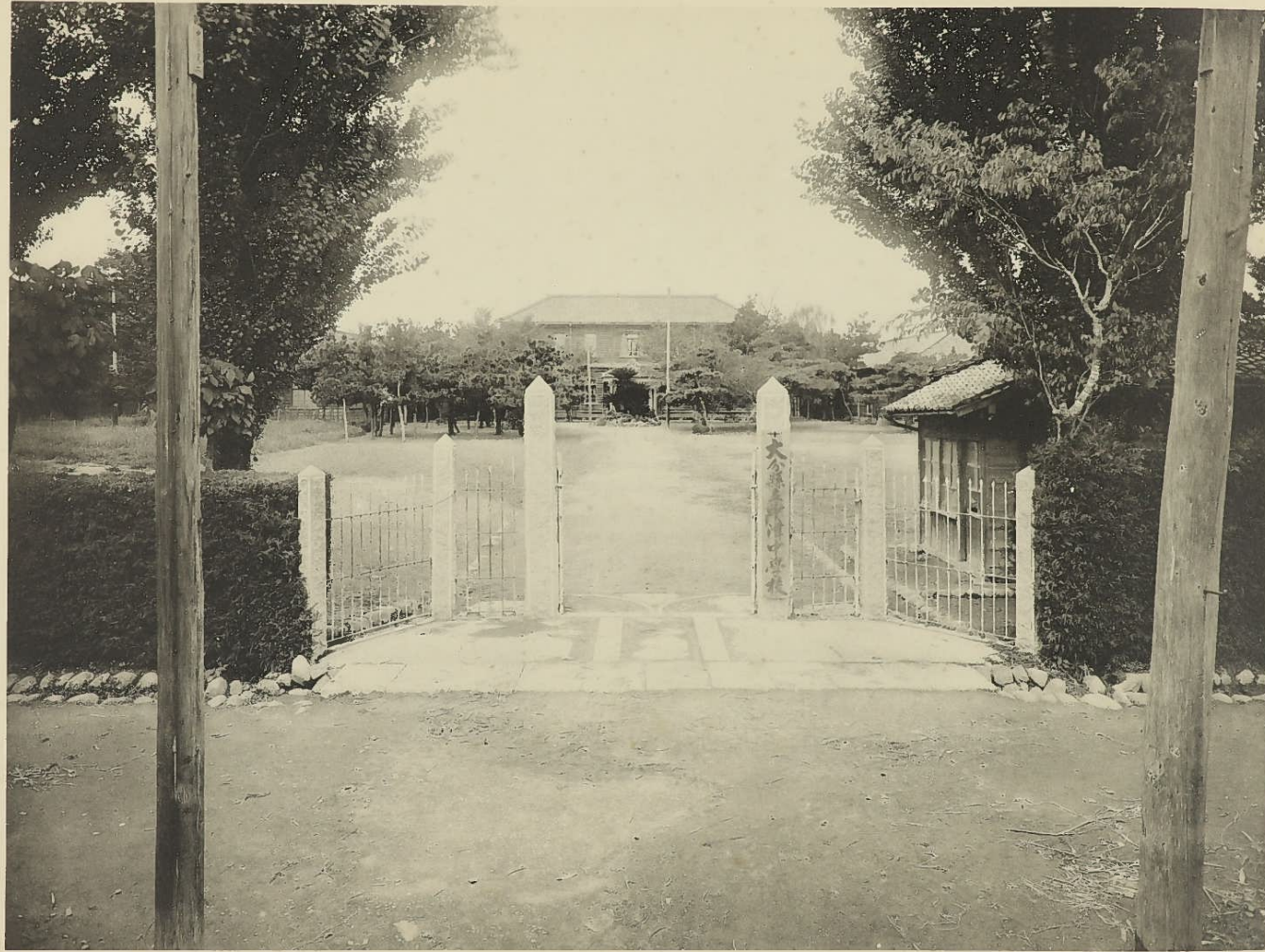




大分縣立中津中學校

中津市街の西端、豊田村に在り、明治二十七年の創立に係る、學校の敷地約七千坪、建物約千五百坪、生徒數六百二十人、之を十四學級に編成す、中津平野の中央に位し、北は渺茫たる周防灘を望み、山國川其の後を繞り、頗る形勝の地たり、





大分縣立宇佐中學校

宇佐市街の東北、高丘にありて、和氣公の舊蹟、大
尾山と相對し、眺望宏濶なり、敷地約七千百坪、建
物約千二百坪、生徒數六百三十人あり。





大分縣立大分高等女學校

明治三十三年六月の開校にして、當時舊師範學校の校舎を充用せしか、三十七年現今の校舎を新築せり、敷地四千九百坪、建物千八百坪あり、本科八學級、三百八十人、實科四學級、百八十人を收容し、共に修業年限四箇年とす、大分市街内に位置して通學に便なり。





大分縣立農學校

大野平野の中央、大野郡三重町にあり、明治二十七年の創立にして、最初臼杵町に設置し、農科、獸醫科、水産科を置きしか、三十八年速見郡石垣村に新築移轉し、大正七年六月再ひ現地に移轉せり、目下農科、畜産科及農業別科を置き、生徒二百五十名、八學級に編成す。





大分縣立工業學校

大分市街の西北部に在り、元大分縣物産陳列場の建物を修築したるものなり、初め明治三十五年速見郡別府町及濱脇町の組合を以て別府町に創立され、乙種程度の工業徒弟學校として特殊の校風を有し、名聲遠邇に高かりしか、四十三年大分縣の經營に移り、大正四年十二月現今の地に移轉せり、同七年組織を改めて甲種程度を本科とし、更に徒弟の別科を附設す、機械、建築、家具、木工の四科を七學級に編成し、生徒約百六十名を收容す。





大分縣立工業學校

大分縣立工業學校